



キビチーちゃんの 献血ニュース

しょう 血漿分画センターを見学してきました!

血漿分画センターとは??

北海道にある、献血によっていただいた血液から血漿分画製剤を作るところ。

血漿分画製剤って?

血漿中のたんぱく質を抽出・精製したもの。

- 種類 ●クロスエイトM(血友病Aの患者さんに欠かせない製剤)
- 赤十字アルブミン(事故などで大けがした人・熱傷・肝臓病・腎臓病の治療に使われる)
 - 日赤ポリグロビン(抗生物質などがなかなか効かない感染症の患者さんに使用される)
 - 抗HBs人免疫グロブリン「日赤」(B型肝炎ウイルスを含む血液による針刺し事故後の発症防止・B型肝炎撲滅のための母子間感染の予防のために使用される)

- 製剤にするメリット
- 1 輸送・保管が簡便
 - 2 有効期間=国家検定から2年⇒長い

全血ではなく、患者さんが必要としている成分のみ取り出すことで、無駄なく、効率よく、血液を使用することができます。



製剤があることは知っていましたが、詳しい種類までは知りませんでした。
献血者の大切な血液が無駄なく有効に使われていることを知り、より献血に協力しようと思いました。

製剤になるまでの過程



- 1 献血(各地の血液センター・ルーム・献血バスなど)
→センターへ
- 2 スクリーニング検査
- 3 NAT検査(北海道・東京・京都・福岡の4か所で実施)
ウイルスの核酸を増幅させてウイルスの有無を検出する検査
→ウイルスが微量でも検出できる
- 4 貯留保管(6か月)
→この保管期間に献血後情報や輸血副作用情報があれば、それに関係する血漿バッグは、取り除かれる。
これにより、**ウィンドウ・ペリオド**※等の血漿が製造プールに入るのを未然に防止できる。

ウィンドウ・ペリオドとは?

※ウイルス感染後、体内で血液中に産生される抗原や抗体の量が、従来の検査法で検出するのに十分な量になるまで数日から数十日かかるため、献血者が感染したことを検出できない期間。



一部抜き取って試験される▶

原料血漿の貯留保管施設▶

-30℃の
冷凍庫で
約150万人分
保管されている



- 5 受入れ検査
保管後、安全の確認された血漿は、製造タンクにプールされ、抗原、抗体の受入れ検査が行われる。
- 6 それぞれの工程で製造、
ウイルス不活化・除去
- 7 自家試験
- 8 国家試験
- 9 患者さんのもとへ



▲ 国家検定中の製剤

スクリーニング検査やNAT検査に加えて、6か月の貯留保管・自家試験・国家試験を経たことによって、より高い安全性を持った製剤を患者さんに提供できるということを知りました。これならば、安心して使用できるなと思いました。

安全性への配慮

- 1 扉はどこも2重扉
→外とは完全に分かれている
- 2 検査が何回もある
- 3 動物実験を行っている
→安全性の確認をきちんと行っている!!

全ての製剤の安全を確認するためには欠かせないことなのでしょうが、動物実験がされているということには衝撃を受けました。安全が当たり前になっていますが、安全保障のためには多くの工程があり、工夫、苦勞があります。そのことを忘れないようにしたいと感じました。



◀ 冷凍倉庫に保管
(ロボットで
積まれる)



キビチーちゃんの 献血ニュース

献血初体験!!

福島県赤十字血液センターの
見学も兼ねて、初めての献血に
行ってきました。

感想1

初めての献血でしたが、不思議と緊張することはなく、自分の血液が役に立つと思うと楽しみながらしていました。いざ採血してみると、大きな針だったので、少し物怖じしてしまいましたが、看護師さんが親切にしてくださったので、安心でした。また、採血中はテレビを見ることができたので、他の事に意識がいき、怖いという思いは忘れていました。

私は400mL献血をしましたが、気分は悪くならず、むしろ、元気になりました。終わってからの水分補給は大切です。

献血するためには、常に健康であることが大切なのだと感じました。



感想2

私は今回初めて献血しました。今まで献血したいとは思っていましたが、実際には怖くてなかなか出来ずにいました。しかし献血してみると、痛みは少なく短時間で終わりました。看護師さんもやさしく緊張をほぐすように接して下さいました。献血に対して「痛い」「怖い」というイメージを抱いている人は大勢いると思います。でも献血をすると、それ以上に温かい気持ちになることができます。そしてこれからも献血をしていきたいと思いました。

感想3

私はクリスマスキャンペーンで初めて献血しました。少し緊張しましたが、血液を採るにあたっていろいろチェックが入り、管理もとてもしっかりとされているんだなと感じました。私は400mLとったのですが、思ったよりも早かったように思いました。看護師さんにも「順調だったね」と言われました。最初は、少し怖いような気もしましたが人々のために自分の血液が使われ、役に立てると思うとやってよかったなと思います。今回のボランティアを通し、経験してみて献血の重要性を知り、より多くの人に協力してもらいたいと感じました。とても勉強になりました。



白血球を除去しているところ

白血球の 除去作業の見学

血液センターでは、ちょうど白血球の除去作業が行われるところだったので、見学させていただきました。普段はなかなか見ることができない作業なので、とても勉強になりました。白血球を除去するのは、輸血した白血球が、輸血された人の白血球に害を及ぼさないようにするためです。除去しないと、最悪の場合、死にいたることもあるそうなので、重要な作業です。

福島県は 輸血用の赤血球製剤の自給率が低い県No1 です!

県内で輸血用の血液をまかなえない
↓
他県から補給されることが多い

ピンチ!
ご協力を!



考えたこと

福島県の赤血球製剤自給率の低さに驚きました。私たちは、県民の皆さんに、また私たちと同世代の皆さんに、献血の重要性を呼びかけていきたいです。献血に対する正しい理解を持ってもらえるように、努力していかなければならないと思いました。

また、学園祭でも献血活動を行いたいと思いました。積極的にさまざまな人々に呼びかけを行っていきたいです。

クリスマスキャンペーン報告

ご協力 ありがとう ございました!	受付者数	1,011名
	200mL	226名
	400mL	635名



編集後記

福島大学

■この記事を書くことを通して、北海道で学んできたことをより深く理解することができました。今まで知らなかった製剤についてや、それを必要とする患者さんについて考えるきっかけにもなり良かったです。多くの人にこの事を知ってもらい、少しでも献血に関心を持ってもらえたらと思います。(A.S)



■昨年引き続き編集委員の仕事に携われたことによって、さらに多くの知識を得ることができました。私自身もそうであったように、周囲の人々も献血についての知識は少ないと思います。そんな人達もこの記事によって献血の知識を得て、協力してもらえるようになればいいなと思いました。(M.T)

桜の聖母短期大学

■今回編集委員となり献血に関わったことで、多くの人と出会い、多くのことを学ぶことができました。これからも献血の大切さを私達の目線から伝えていきたいです。(M.M)

■編集委員になったことで献血の現状や重要性を知る事ができました。これからは献血を推進するために、積極的に活動していきたいです。(T.F)

